

SUPPORTERS

サポーターズ No.155 2020 春号

一般社団法人 山梨県理学療法士会ホームページ

<http://ypta.jp/>

会員数 894 名 施設数 134 (R2.2.15 現在)

「supporters (サポーターズ)」とは…

我々理学療法士が社会に寄与していく職種であることを思い、『支える人』という意味の supporter に複数形のsを加え、supporters：支える人たち（造語）の意味です。

「厚生労働省指定臨床実習指導者講習会(第1回山梨県講習会)を終えて」

健康科学大学 高村 浩司



令和元年11月23日、24日の両日、山梨県では初めてとなる厚生労働省指定臨床実習指導者講習会(第1回山梨県講習会)が健康科学大学にて開催されました。この講習会は、新たな指定規則に基づくもので今後、学生の臨床実習指導を行う上で必須の講習会として位置付けられています。

第1回目は、県内から49名(1人欠席)の臨床実習指導者の方々にお集まりいただき2日間で16時間に及ぶ講義と演習(グループワーク)を行いました。プログラムは、厚生労働省の指示に基づく内容であり、休憩時間も少なく非常にタイトなスケジュールでした。講師およびグループワークのファシリテーターは、臨床実習指導者中央講習会を受講した6名が担当しました。

講習会の内容としては、講義を行った後に1グループ9名~10名の参加者に分かれ活発な意見交換を行い議論した内容をポスターとしてまとめ、その内容を発表するポスターツアー形式で進められました。参加者は、すべて臨床経験5年目以上の方々と議論も非常にスムーズにそして大変熱のこもったものとなりました。特にグループワークにおける演習の課題では「臨床実習の到達目標」や「診療参加型臨床実習における学生評価」の項目において時間を超過するほど熱心に議論が行われており、常日頃から学生指導に対する情熱が感じられ、非常に価値ある講習会になったと思われま

す。臨床実習指導者山梨県協議会では、今年度理学療法士を中心とした講習会が2回(健康科学大学、帝京科学大学にてそれぞれ1回)行われました。来年度も今年度同様に年に2回の臨床実習指導者講習会の開催を予定しております。できるだけ多くの指導者の方々に参加いただきたいのですが、講師及びファシリテーターを務めることが出来る人数に限りがあり、現在のところ1講習会につき50名定員を上限としております。どうかご理解をいただきますとともに早めの受講をお願いいたします。



CONTENTS

厚生労働省指定臨床実習指導者講習会を終えて 1

各部活動報告 02~05

●調査研究部 ●医療保険部・介護保険部

●新人教育研修部 ●学術研修部

●スポーツ理学療法部 ●士会学術集会部

士会常設委員会活動報告 06~07

●働きやすい環境創り検討委員会

●糖尿病対策推進委員会

●特別支援教育委員会

お知らせ 08~11

●第23会臨床脳神経外科学会

●事務管理局

●とある会報部のつぶやき

リレーエッセイ Part37 12~13

原稿募集 12

編集後記 13

各部活動報告

企画局 調査研究部発

調査研究部は、各部局からの依頼に応じアンケート調査と調査内容の分析を行っています。

具体的には、研修会後のアンケート調査や、毎年開催される一般県民を対象とした公開講座でのアンケート調査などがありますが、その他にも県民・士会員を対象とした公益性のある調査も実施しています。前回は、『介護保険サービスに関する意識調査』として介護支援専門員が持つセラピストに対するイメージやセラピストと上手く連携を取れているかなどの意見をアンケート調査しました。現在、県士会のHPでも閲覧できますので、今後の臨床に役立てて頂ければ幸いです。今年度も皆様にとって有益となる調査を検討しています。調査して欲しいというものがあれば、是非意見を頂きたいと思いますので宜しくお願い致します。



★ お問い合わせ先：企画局 調査研究部 塩原 真
(恵信甲府病院 keishin6@eps1.comlink.ne.jp)

福祉厚生局 医療保険部・介護保険部発



会員の皆様には、日頃より福祉厚生局の活動に関して、御理解・御協力を賜りまして、心から感謝申し上げます。令和1年10月25日に「医療・介護報酬に関する基礎的研修会」を、山梨県立青少年センターにて開催致しました。今回の研修会では、参加総数36名、経験年数3年以内の先生方のみならず、中堅・ベテランの先生方にも足をお運びいただきました。診療報酬は医療保険部副部長の水上卓先生が担当し、介護報酬はわたくし遠藤が担当しました。平成30年度の同時改定から1年が経過しました。臨床で様々な疑問を持ちながら仕事をされていた先生もおられ、講義終了後に熱心に質問をする姿を拝見しました。アンケートでも、「次の改定の際にもぜひやっていただきたい。」「資料の見直しをしたり、研修会に参加したりして知識を深めたい。」などの御感想をいただきました。今後も会員の皆様に情報提供ができるように努めて参ります。

★ お問い合わせ先：福祉厚生局 医療保険部 雨宮 直樹 (山梨県立中央病院 amemiya-agve@ych.pref.yamanashi.jp)
介護保険部 遠藤 勇志 (山梨ライフケア・ホーム endo2000@violin.ocn.ne.jp)

生涯学習局 新人教育研修部発

□ 新人教育プログラム活動報告

11月6日に、山梨県立青少年センターにて新人教育プログラムが開催されました。始めに帝京科学大学の田中和哉先生から、統計方法論について講義を受けました。研究だけではなく、臨床でも使える統計学の知識と修得方法を学ぶことができました。その後、健康科学大学の玉木徹先生による症例報告・発表の仕方についての講義では、症例報告のルールと心構えを中心に、常に考えて学んでいくことが症例報告につながることを学ぶことができました。

今回の講義を受けて、臨床経験を積み重ねていく上での今後の指標が出来たと感じました。2つの講義で共通していることは、目の前の患者さんに対して十分に思考する大切さです。私たちが、その思考を研究や症例報告として形にすることで、未来の理学療法につなぎ、それが未だみぬ患者さんの回復につながると確信できました。

山梨リハビリテーション病院 佐藤 秀
(★お問い合わせ先：生涯学習局 新人教育研修部長 笠井 雄太
山梨リハビリテーション病院 yamareha1984@yahoo.co.jp)



学術研修局 学術研修部発

□ 第三回学術研修会「運動学習を基礎と臨床から考える」

令和元年11月17日に今年度3回目となる研修会を、神奈川県立保健福祉大学の菅原憲一先生をお招きして開催いたしました。

「運動学習を基礎と臨床から考える」というテーマで、菅原先生には運動学習に関する基礎研究を中心にご講演いただきました。「運動学習のブラックボックスになりがちな部分の解明は重要。また『基礎研究は臨床を生かし、臨床研究は基礎を生かす』それぞれ相互関係にあり、セラピストは双方の研究に関わる必要がある」といった講演内容で、理学療法士としての在り方を見つめ直す機会となりました。



また、今回は臨床での運動学習部分を平賀が担当いたしました。普段は開催側ですが、初めて講演側として皆さんと接することができ、伝えたいことを直接伝えられたと感じております。ありがとうございました。

学術研修部では年4回の研修会を開催いたします。臨床や研究など多方面に活かせる内容を企画していきますので、多くの先生方のご参加をお待ちするとともに今後の学術研修部の活動へのご理解とご協力をお願い申し上げます。

★ お問い合わせ先：学術研修局 学術研修部長 平賀 篤
(帝京科学大学(医療科学部理学療法学科) a-hiraga@ntu.ac.jp)

社会局 スポーツ理学療法部発

□ 全日本剣道選手権大会のサポートを経験して



令和元年11月24日、小瀬スポーツ公園武道館で開催された第53回全日本剣道選手権大会のサポートに参加しました。剣道は空手を原型に旋・運・変・捻・転といった様々な動きを駆使して、アクロバティックな攻防を繰り広げるとても魅力的な武道です。

今回私は、試合中に回し蹴りが顔面に入り倒れて動けなくなった選手を対応しました。まずは意識状態を確認、数秒で意識の回復はありましたが顔面の変形もあり、脳震盪と頬骨骨折を疑いバイタルチェックをはじめ、運動機能等の確認を行いました。審判に状況報告をして、救急車を呼び病院に搬送、結果は脳震盪に加え頬骨骨折ということでした。また鼻骨骨折や鼻出血、熱中症なども経験しました。スポーツ現場では、様々な症状に対して短時間での確に評価をし、迅速に対応することが求められます。日々の勉強を積み重ねていき、最適な準備をしておく必要があると痛感しました。頑張るぞ！



社会局 スポーツ理学療法部 三木 伸太郎 山梨リハビリテーション病院
(★お問い合わせ先：スポーツ理学療法部長 小尾 伸二 山梨大学医学部附属病 sobi@yamanashi.ac.jp)

社会局 スポーツ理学療法部発

□ 一東海大学付属甲府高等学校柔道部 高校選手権県予選に帯同してー



今年は東京オリンピック、メダルの期待が大きい柔道界は盛り上がりを見せています。そんな中、令和2年1月11日・13日、高校柔道3大会の1つである全国高校選手権県予選が小瀬スポーツ公園武道館で行われました。3年生引退後、初の公式戦であり、特に2年生は進路にも影響する重要な大会でもあります。我々の対応もあり年末のハードな試合合宿を乗り越え、順調に試合当日を迎えることができました。例年同様、個人戦においては準決勝からは

は同校での対決も多く、緊迫した試合が続きました。ハムストリングス肉離れ、肘内側側副靭帯損傷、絞めによる意識消失、肩 SLAP 損傷など同校だけでも多くの外傷がありましたが、結果は個人戦全階級、団体戦、本戦出場を果たしました。ここから3月の本戦に向けて練習もハードになってきます。最高のコンディションで本戦が迎えられよう対応していきたいと思います。

社会局 スポーツ理学療法部 小林 幸一郎 山梨大学医学部附属病院
(★お問い合わせ先：スポーツ理学療法部長 小尾 伸二 山梨大学医学部附属病 sobi@yamanashi.ac.jp)

学術大会局 士会学術集会部発

□ 第23回山梨県理学療法士会学術集会

令和2年1月12日にアピオ甲府タワー館にて第23回山梨県理学療法士会学術集会を開催しました。特別講演に文京学院大学の柿崎藤泰先生をお招きし、「胸郭運動システムの再建法～基本的な考え方から介入におけるポイントまで～」というテーマにてご講演をいただきました。柿崎先生からは、胸郭を他の分節と



連携するシステムとして捉えた運動の診方や考え方についてご教授いただきました。

教育講演では廃用症候群に対する理学療法・心疾患に対する理学療法・リスクマネジメントと多岐にわたりご講演をいただきました。また、シンポジウムとして、「食事動作に関わる理学療法士の役割」について、一般病棟（回復期病棟）・老人保健施設・在宅の各視点から普段考えながら取り組んでいる内容についてご講演いただきました。一般演題は23演題、参加者は268名の方が参加し、実り多い学術大会となりました。



★ お問い合わせ先：学術大会局 士会学術集会 部長 宮野 将貴
(甲府城南病院：shikaigakujuutu.yamanashi@gmail.com)



文京学院
柿崎 藤泰先生



甲府城南病院
齋藤 智雄 会長



第23回
山梨県理学療法士会
学術集会
Photo

士会常設委員会活動報告

働きやすい環境創り検討委員会



ワークライフバランスとは

ワークライフバランス（仕事と生活の調和）とは、「国民一人ひとりがやりがいや充実感を感じながら働き、仕事上の責任を果たすとともに、家庭や地域生活などにおいても、人生の段階に応じて多様な生き方が選択・実現できる社会」と実現すること

（内閣府：ワークライフバランス憲章より）



働きやすい環境創り検討委員会 委員長
糖尿病対策推進委員会 委員長
藤田 理恵
湯村温泉病院 fuji3-yhp@hken.jp



この委員会の由来は、2010年全国学術大会時にて行われた「女性理学療法士の会」発起人会となります。その後関東甲信越ブロック理学療法士学会にて情報交換会が年1回程度開催され、2019年からこの情報交換会の同時開催として、「働きやすい環境創り検討委員会」が行われ参加してきました。

今回は各士会のワークライフバランスの取組や課題、具体的には、研修会開催・学会等での託児所設置・実習生へのパワハラ問題が議題としてあがりました。

今後当士会においても会員の皆様が、「仕事上の責任を果たしながら、充実感を持って働く」ための選択ができるよう、まずは現状把握、そして情報提供を行っていきたいと考えております。

糖尿病対策推進委員会

この委員会は、日本理学療法士協会が日本糖尿病対策推進会議の構成団体であることを踏まえ、各地域で行われている糖尿病対策事業に理学療法士が積極的に関わることができる体制を整えることを目的に、2019年協会より依頼を受け立上げとなりました。

糖尿病対策における運動療法の指導、教育、講義などの活動を個人で受けている現状から、その地域での対応が継続できるよう、士会の中での組織化を図ります。

まだ決まった業務はありませんが、障がいを知る、地域のリハ資源を知る理学療法士だからできる運動療法の指導、療養指導、そして地域の資源としての理学療法士の力を伝えていくことも重要な役割と考え、活動をしていきます。是非一緒に活動してくれる方、募集しております。

特別支援教育委員会委員長

山梨リハビリ専門職団体協議会 特別支援教育委員会役員
山梨県理学療法士会 特別支援教育委員会委員長
高村 裕子
フリーランス（山梨県立甲府支援学校 健康科学大学クリニック他）



令和元年11月5日（火）19:00からびゅあ総合にて「社会適応の困難な方の理解と支援ー大人の発達障害を中心にー」山梨英和大学人間文化学部の小林真理子先生にご講演をいただきました。参加者は、80名（内訳：PT23名、OT21名、ST32名、その他4名）でした。

発達障害とは、文部科学省や厚生労働省でも提示しており、自閉症スペクトラムやアスペルガー症候群、学習障害LDや注意欠陥多動症候群ADHD、その他にトゥレット症候群も含まれており、低年齢から症状が表出されることが特徴といわれています。

自閉症スペクトラムの特徴として、「人の気持ちや場の空気を読めない、暗黙のルールがわからない、応用が利きにくく不器用、機械的で正確、大真面目で頑なに見える。」と特徴を紹介されました。

様々な専門職や学生、患者様と出会う方々にとっては、身近な方々を連想したり、自身にも類似した一面を共感する機会になったかと思われました。

発達障害の数多くの事例とその関りで、本人の生きづらさや不適応感の要因を探り、心理教育的アプローチや家族療法的アプローチの一部が紹介されました。困っている本人、家族の理解、本人を取り囲む周囲の関係者の理解が大切であることを再確認しました。また、俳優のトム・クルーズ（学習障害・失読症）や映画監督のステイブンスビルバーグ（学習障害）など有名人を取り上げることで、特性のイメージとポジティブな理解も紹介されました。見方を変えると、不注意は様々なことに気が回りやすく、過活動は精力的に活動ができ、衝動性は即戦力があるとも考えられるとのことでした。

この研修を通して発達障害の特性の背景には、脳科学的な問題、発達性協調運動障害や感覚障害、運動の特性などがあることも学びました。クリニックや学校訪問の現状からも発達障害といわれる特性を理解するためには、個々に向き合い、誤解のないよう理解を深め、多職種と連携していく必要があると再認識しました。



高村 裕子 先生



INFORMATION

お知らせ

第23回日本臨床脳神経外科学会

The 23rd Annual Congress of
Japan Association of
Neurosurgical Clinics.

脳神経外科臨床の
光と影

一般演題
募集期間 2020年
3月16日(月)～5月27日(水)

事前参加
登録期間 2020年
3月16日(月)～7月31日(金)

会期 2020年9月20日(日)・21日(月・祝)

会場 甲府記念日ホテル 〒400-0073山梨県甲府市湯村3-2-30 TEL 055-253-8111

大会長 篠原 豊明 (医療法人社団 篠原会 甲府脳神経外科病院 理事長・院長)

山梨県大月市 第26回写真コンテスト デジタル部門 白旗賞受賞 / 題名: 幻想の夜 / 撮影者: 中村亮太

山梨県大月市 第26回写真コンテスト デジタル部門 白旗賞受賞 / 題名: 幻想の夜 / 撮影者: 中村亮太

準備委員会 医療法人社団 篠原会 甲府脳神経外科病院内
〒400-0805 山梨県甲府市酒折1丁目16番18号
E-mail: jansc23@yahoo.co.jp

運営事務局 株式会社 JTB コミュニケーションデザイン ミーティング&コンベンション事業部内
〒541-0056 大阪府大阪市中央区久太郎町2-1-25 JTBビル7階
TEL: 06-4964-8869 Fax: 06-4964-8804 E-mail: 23jansc@jtbcom.co.jp

<https://convention.jtbcom.co.jp/23jansc/>

本学会は医師や歯科医師をはじめ、看護師や技師などのコメディカル、そして医療事務など脳神経外科領域に関わるあらゆる職種が集い、多彩な発表や討論が行なわれる非常にユニークな学会です。今回のテーマは「脳神経外科臨床の光と影」とし、光の当たる最新医療についてはもちろんですが、失敗や医療過誤等の影の部分にもスポットをあてていきます。

一般演題では医学的なことに限らず、医療安全対策や防災・医療経営など多岐にわたるテーマの発表があります。身近で素朴なテーマで、翌日からの業務の参考になると思います。

懇親会も人数に制限はありますが、美味しい料理とワイン、その他をふんだんに用意してお待ちしております。

必ず役に立ち、面白いと思える学会になると思います。脳神経外科に勤務されているかどうかに関わらず、山梨県理学療法士会会員各位には多くの演題発表また、ご参加をいただきたいと思ひます。ご不明な点がありましたら下記の学会準備委員会までお問い合わせ下さい。また、最新情報は学会ホームページにも随時掲載していきます。

★ お問い合わせ先：第23回日本臨床脳神経外科学会準備委員会 北澤 澄
(甲府脳神経外科病院 jansc23@yahoo.co.jp)

脳神経外科専門医クレジット5単位

当学会で演題発表してみませんか？

第23回日本臨床脳神経外科学会

医師・看護師・コメディカル・事務職など
脳神経外科に携わる多職種が一堂に会します

【会期】
2020年
9/20(日)
9/21(月・祝)

【テーマ】
脳神経外科
臨床の
光と影

【場所】
甲府記念日
ホテル
(旧 甲府富士屋ホテル)

< 特別講演 >
大村 智 博士
(2015年ノーベル賞受賞)

< 文化講演 >
金田一秀穂 先生
(杏林大学外国語学部教授・
山梨県立図書館館長)

< シンポジウム >
多職種で取り組む
脳外科関連の
医療過誤

他、多数

一般
演題

全演題
口述発表

脳卒中/脳腫瘍/転倒・転落予防/
リハビリ/教育・研修/地域医療/
社会復帰/病院経営 など

一般演題
募集期間
2020年3月26日
～5月27日

9/21
(月・祝)

市民
公開講座

○「最新の脳血管内治療(仮題)」
○立川らく朝「健康落語」

登録方法等の詳細はホームページをご覧ください。

<https://convention.jtbcom.co.jp/23jansc/>

※演者は事前に正会員登録が必要です。



学会ホームページ

お問い合わせ先

- 準備委員会: 医療法人社団 篠原会 甲府脳神経外科病院
〒400-0805 甲府市酒折1-16-18 E-mail: jansc23@yahoo.co.jp
- 運営事務局: 株式会社 JTB コミュニケーションデザイン
ミーティング & コンベンション事業部内
〒541-0056 大阪府大阪市中央区久太郎町2-1-25 JTBビル7階
TEL: 06-4964-8869 FAX: 06-4964-8804 E-mail: 23jansc@jtbcom.co.jp

事務管理局からのお知らせ

= 協会より重要なお知らせ =

◆ 会費の納入期限について

2018 年度から「会費納入期限」が前納制に変わりました。

2020 年度分の会費の納入期限は 2020 年（令和 2 年）3 月中になります。

楽天カード、口座振替の会員については、3 月中に引き落としになります。

引落登録のない会員については、2019 年 3 月上旬から、振込用紙が順次発送されます。

注意：振込用紙を利用されている会員につきましては、

用紙到着から納入までの期限が短くなっています。

3 月末までに納入のなかった場合は、4 月から会員権利の全面停止、

6 月末までに納入のなかった会員につきましては、会員資格喪失により退会、となります。

*退会となった場合、これまで獲得した生涯学習ポイント等はすべて失効となります。

再度在会を希望した場合は「新入会」となり新人教育プログラムからの再履修が必要です。

「4 月以降の異動が決定した場合（特に県外へ）」は、可能な限り早めの申請をお願いします。

「休会、退会」を希望される会員は、2020 年 3 月 31 日までに手続きをして下さい。

*期間内に手続きが完了した場合は、引落決済確定後も後日返金されます。

*年会費納入確定後 4 月 2 日以降に申請をされた場合は、返金されませんのでご注意ください。

会員情報の変更手続き（異動、休会、退会、会費納入方法等）については、

協会 HP の「マイページ」から手続きを行ってください。

マイページにアクセスするには、協会が各個人に発行した ID とパスワードが必要です。

「ID やパスワードがわからない」という方は、協会 HP のマイページから

再発行の手続きをお願いいたします。

「そもそもインターネット環境が無い」という会員の方は、

お手数ですが日本理学療法士協会まで問い合わせをお願いします。

（公社）日本理学療法士協会 TEL:03-5414-7911



*会員情報につきましては、（公社）日本理学療法士協会の会員管理システムにて一括管理

されているため、県士会単位では対応ができません。

◆（公社）日本理学療法士協会の年会費割引制度の案内

日本理学療法士協会には年会費の「育児休業割引」、「シニア割引」、「海外会員割引」があります。

詳細は日本理学療法士協会 HP「年会費」をご覧ください。

= 士会よりお知らせ =

◆ 会員の慶弔があった場合について

一般社団法人山梨県理学療法士会 慶弔規定に基づき対応いたします。

山梨県士会 HP の「お問い合わせ」のページ内にある

「会員慶事通知フォーム」、「会員弔事通知フォーム」からお願いします。



◆ 事務管理局への問い合わせについて

山梨県士会 HP の「事務管理局への問い合わせ」メールフォームからお願いいたします。

インターネット環境がない会員の方は、

山梨県立あけぼの医療福祉センター 療法科内 担当 有泉

TEL：0551-22-6112（療法科直通）までお願いします。

◆ 会員への研修会の通知や各種の案内文書を郵送からメール配信に変更することについて（学会誌や会報誌などの成果物は除く）

このことについては昨年 5 月の定期総会にて提案させていただき、賛成の決議をいただきました。

当士会では研修会の通知や情報提供などは各施設、自宅会員あてに郵送で行っていますが、それにかかる経費は年間で 40 万円～ 50 万円（印刷費、封筒代、紙代も含む）になっています。

そのため経費削減と郵送にかかる作業負担軽減を図るため、メール配信に移行すべく準備を進めております。

現在までにメール配信システムの仮構築が終了し、士会役員を対象としてテスト配信を行っておりますが検討課題も見えてきていますので、一つ一つ対応している状況です。

メール配信については、2020 年度（令和 2 年度）からの運用を目指しておりますが、その運用が軌道に乗るまでは郵送との併用を行っていく予定です。

今後会員のみなさまには状況を報告していきますので、ご理解とご協力をお願いいたします。

臨床実習
指導者講習会を
受講した

とある会報部のつぶやき

理学療法作業療法士学校養成施設指定規則が 19 年ぶりに改正される。

日本の理学療法の一部、19 年間「凍っていた時間」が変化に向けて進みだす。

インド独立の父、マハトマ・ガンジー氏は「世界を変えたいなら、まずは自分が変わらなさい。」と唱えた。論理的な真偽はともかく、この提唱を真と仮定した場合、「逆」も真と考える。

「日本の理学療法」という小さな「世界」ではあるが、変化が得られた。

「世界が変わったので、次は自分も変わらなくてはならない」

第 1 回山梨県講習会を受講し、ようやく私の凍った部分も溶けていく思いだった。

今後も、今までとは違うスピードで理学療法は変化していくことが予想される。

科学者の末席を汚す者として、変化を伴った自分自身の成長を科学したいと思う。





途絶えることのないバトンを君に /

リレーエッセイ

『リレーエッセイ』
とは…

士会員を対象に、身近な出来事・お国自慢・今はまっていること・病院紹介など、何でもよい（ただし、誹謗や中傷の内容は除外します）ので400字程度で執筆していただき掲載していく企画です。

以前の Supporters にあった「会員のひろば」との違いは、会員同士の輪を広げるということで、執筆された方が次の執筆者を決めて、紹介していただくという点です。無理やり書いていただくわけではなく、執筆者同士の繋がりを大切にしていきたいと考えていますので、依頼を受けた方は快く執筆していただけたらと思います。

リレーエッセイ

Part 37-1

山梨県庁 白倉 ゆかり

同期繋がりで韮崎市立病院の神谷先生からバトンを受けました、山梨県庁の白倉ゆかりです。行政で働く数少ないPTとして、県庁での仕事を紹介させていただきます。

私は、健康長寿推進課に所属しており、介護予防に関する業務、リハビリテーションに関する業務を一手に行っているため、研修会等でご最近見たことあるな…と思う方がいるかもしれません。今流行の「フ

レイル予防」「地域ケア会議」「通いの場」を市町村で実施出来るように研修会を開催したり、POSバンクを使って派遣をしたりといった仕事をしています。

高齢者が地域で暮らすためにリハ職として何が出来るのか考える毎日です。

市町村と専門職をつなぐ仕事をしているので、士会の皆様あつての仕事。

これからもどうぞ御協力よろしくお願いします。

県の仕事は市町村事業の支援ということで、次は南部町役場の金森永次先生にバトンをつなぎたいと思います。

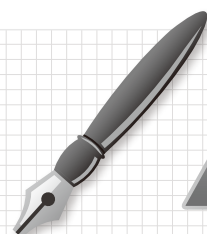


原稿を募集しています！

会報部では会員の声を少しでも多く取り入れたいと考えております。テーマ等は自由です。

1. 研修会・勉強会等の開催案内・報告内容など
2. 各種お知らせ事項など
3. 体験記など
4. その他

● 問い合わせ先：広報局 会報部 宇月正明
春日居サイバーナイフ・リハビリ病院
TEL：0553-26-4126 FAX：0553-26-4366
E-mail：kaihoushiyamanashipt@yahoo.co.jp



内容の規定はありませんが、個人・団体等の中傷あるいはこれに準ずるものは不可。

※ 第156号発行は、
2020年9月を予定しています。

原稿の締め切りは

7月中旬です。

リレーエッセイ

Part 37-2

春日居サイバーナイフ・リハビリ病院 小林 公司

皆様こんにちは。塩川病院の中部大地先生からご紹介いただきました、春日居サイバーナイフ・リハビリ病院の小林公司です。

早いもので令和も2年目を迎えました。働くようになってからは日々時間に追われ、あっという間に1年が過ぎてしまうものです。

あっという間に過ぎてしまう1年を大切に過ごすために、私が習慣にしていることがあります。それは、年頭や年度初めに仕事・プライベートの目標を立てることです。これは以前、先輩に教えて頂き十数年続けていることです。

ふとした時に自分の立てた目標を意識することで、自分自身を振り返る機会になっています。目標を再認識することで、向上心をもって過ごすことができるため、よい習慣になったと感じています。

今年は目標達成に向けて成長していけるよう、日々邁進していきます。

今回は、大月市立中央病院の馬場大介先生にバトンを託します。よろしくお願いします。



編集後記



台風15号・19号の暴風豪雨災害により被災された方々に心からお見舞い申し上げます。また亡くなられた方には謹んでご冥福をお祈り申し上げます。

12月10日にノーベル科学賞受賞、吉野彰さん。経歴を見ますと、1972年3月に石油科学専攻、修士。2005年3月に工学博士を取得されていました。おそらく57歳の時です。思い出すのは、ピーター・ドラッカーが13歳の時の話。先生から「何によって人に覚えられたいか」と質問され、誰も答えられませんでした。「今、答えられるとは思わない。でも50歳になっても答えられないと問題だよ。人生を無駄に過ごしたことになるからね」。私はいまだに「少年老いやすく…」、ノーベル賞は無理でも、何歳になっても目標は持たなければと痛感いたしました。

さて今年はオリンピック・パラリンピックイヤーです。どんなドラマが飛び出すか楽しみです。

会報誌発行の際も引き続きご協力をお願いいたします。

宇月 正明

【発行】 一般社団法人 山梨県理学療法士会

【代表】 小林 伸一

【企画・校正】 宇月 正明 古澤 淳一 進藤 圭一郎 立澤 俊貴 一瀬 智之

【編集・印刷】 株式会社 たけまる

【会報部】 〒406-0014 山梨県笛吹市春日居町国府436
医療法人 景雲会 春日居サイバーナイフ・リハビリ病院
TEL: 0553-26-4126 FAX: 0553-26-4366
E-mail: kaihoushiyamanashipt@yahoo.co.jp



